

平成 27 年度園田地区人権問題講演会報告

<p>テーマ</p>	<p>笑顔で介護、介護で笑顔！ ～大切な人が住み慣れた家、地域で暮らし続けるために～</p>
<p>日時</p>	<p>平成 28 年 3 月 3 日（木曜日） 午後 2 時から午後 4 時まで</p>
<p>場所</p>	<p>尼崎市立園田公民館ホール</p>
<p>講師</p>	<p>特定非営利活動法人つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾 多重子 氏</p>
<p>参加者</p>	<p>75 人</p>
<p>事業の目的</p>	<p>認知症高齢者の数は増加しており、平成 37 年には約 700 万人、65 歳以上の高齢者の約 5 分の 1 に達することが見込まれる。そうした中、家族の介護疲れによる事件や施設での介護職による虐待等が生じるなど、認知症や介護の問題は高齢者の大きな人権問題にもなっており、介護者に対する支援が求められている。</p> <p>今回、高齢者をはじめ、介護家族や介護職、学生など様々な人たちの交流する場を開設し、介護者の孤立を防ぎ、介護者を支援する取組みをしている講師を迎え、誰もが身近なものとなっている認知症や介護の問題について学び考える機会とする。</p>
<p>講演内容</p>	<p>つどい場を開設するまで</p> <p>高校卒業後、4 年間の商社勤務、15 年間ほど「食」に関わる仕事をしたのち、家族の介護が始まり、10 年間で母、兄、父の 3 人を在宅で看取る。</p> <p>父を看取った後、たまたま手にしたチラシを見て 1 級ヘルパー講座に通い、実習先の介護施設で老人をモノ扱いした入浴介助に切れて、翌日から不動産屋を回り、マンションを借り、平成 16 年 1 月、「つどい場さくらちゃん」を開設した。</p> <p>つどい場さくらちゃんの活動</p> <p>平成 20 年 11 月からは、阪神西宮駅近くの一軒家の借家に場所を移し、介護家族や介護職たちが食べたり泣いたり笑ったりしながら交流する場を設けている。その他、つどい場では、介護家族や介護職などを対象に、介護講座を開催する「学びタイ」、介</p>



	<p>護疲れでリフレッシュしたい時や買物などで外出したい時に代わりに介護する「見守りタイ」、介護される人も介護する人も一緒に外出し、最近では北海道や沖縄まで行く「おでかけタイ」の活動を行っている。</p> <p>地域につどい場を</p> <p>つどい場には場所が必要である。行政には空き店舗や空き家の活用策としても考えてほしい。「きょういく」と「きょうよう」。今日行く、今日用がある、そんなつどい場が地域のあちらこちらに出来ればいいと思っている。そして、ここ尼崎でも広がってくれることを願っている。</p>
<p>参加者からの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な立場の方がつどえる場が重要であることや関係者にとって支えになることがよくわかった。 ・ 介護者だった時のことを思い出し胸せまる思いだった。今後は私が介護を受ける立場なので、いろいろ考えるところがあった。尼崎にもこんな「つどい場」が出来るといい。 ・ 話がとてもわかりやすく聞きやすかった。 ・ プロフィールを見ると随分と苦労されてきたと思うが、それを感じさせないほどの前向きさに頭が下がる ・ 命の大切さや人間同士の絆がメッセージとして強く訴えられていて大変良かった。 ・ 笑いあり、そして驚きあり。 ・ 実体験に基づく話を含めて活動が参考になった。 ・ 人間誰でも生きる権利がある、そのことを大切にされている。 ・ 地域で見守りをするための基本を教えてもらった。自分のできることからお手伝いできたらと思った。お互いの信頼関係を作ることでも何でも相談できる人たちがいるということは本当に大切だと思う。
<p>成果</p>	<p>地域で高齢者を支える実際の取組みと必要性を学ぶことにより、認知症や介護の問題についての意識が高まり、それぞれの参加者の次の行動に向け、大いに参考になったと考えられる。</p>